

# 読み聞かせの効果

1

親子の絆を深め、  
こころの安定につながります。

絵本や本とおしてふれ合う時間は、家族にとって楽しいひとときになり、子どもと同じ世界を共有することができます。このことから、家族から愛されているという満足感が得られ、こころの安定につながります。



2

豊かな言葉とこころを育みます。

絵本や本は、美しい言葉がたくさん綴られています。また、絵本で語られるさまざまな出来事や気持ちにふれることで、人の思いを感じるこころを育むとともに、生きる知恵を知る機会にもなります。



3

想像力を養い、学ぶ力の  
基礎をつくります。

絵本や本に出てくる場面の様子や、登場人物の気持ちを想像することを楽しむようになります。また、小さい頃から読み聞かせをしていた場合、成績が高い傾向にあるという調査結果（※）もあります。

（※）平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（国立大学法人お茶の水女子大学）

もっと絵本や本にふれる機会を！

乳幼児期の読み聞かせの経験が、その後の読書時間や言語発達に大きく影響を与えられます。しかし、家庭での読み聞かせの頻度は3歳をピークに、年齢が上がるにつれて低くなる傾向にあります。

家庭での読み聞かせが難しい場合は、近くの図書館や公民館等の絵本や本とふれあえる施設を活用してみましょう。本に囲まれた空間で子どもと一緒に本を選んだり、読んだりするのは楽しいものです。また、定期的に参加されている読み聞かせ会に参加するのもいいですね。

子どもと一緒に、近くの図書館や公民館等に行ってみませんか。



家族の思い出、

そして子どもの人生の一冊に…

子どもの頃に楽しんだ本や、大人から絵本や本を読んでもらった経験は、うれしかった思い出としていつまでもこころに残ります。

そして、子どもが親になった時、こころに残っている本を読み聞かせ、思い出はさらに受け継がれていきます。

読み聞かせを通じて、子どもとこころがふれ合う温かい時間を過ごしませんか。



【本リーフレットをお読みになる皆様へ】

本リーフレットに掲載している、読み聞かせの時期やコツ、おすすめの絵本・本はあくまで参考です。子どもの発達段階や読みの経験、興味・関心は異なります。それぞれの子どもに応じた読み聞かせを大切にしてください。

福岡県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会

子どもの読書活動推進リーフレット

# 読み聞かせで 子育てを もっと楽しく



【発行】 福岡県教育庁北筑後教育事務所 社会教育室

# 0～2歳頃の読み聞かせ

【声と体でふれ合おう】

この頃(乳児期)の子どもは・・・

言葉の音やリズム、大人の表情や雰囲気を感じています。また、周りの大人から言葉をかけてもらいながら、言葉を獲得していきます。



# 2～6歳頃の読み聞かせ

【言葉やジャンルを広げよう】

この頃(幼児期)の子どもは・・・

言葉への理解が進み、物語や昔話を想像しながら聞くことができるようになります。また、さまざまなことに興味・関心をもち、個性もはっきりしてきます。



# 6歳以上の読み聞かせ

【内容を味わい、想像を広げよう】

この頃(児童期)の子どもは・・・

自分で絵本を読んで楽しむとともに、主に文字から楽しみを味わう児童文学への関心が高まってきます。読むことは楽しいことと実感できるようになってきます。



## 乳児期の読み聞かせ

語りかけや子守歌、わらべ歌、絵本の読み聞かせで、声と体でふれ合いながら、親子の絆を深めることが大切です。抱っこをしてひざにのせる等、なるべく寄り添って読んでみましょう。

1冊全部でなくても、好きなページだけでもいいです。自分も楽しめる読み聞かせをしましょう。

〈おすすめの絵本〉

- ★ 子どもの好きなものが載っている絵本
- ★ 身近な動物や植物が登場する絵本
- ★ 生活の中の言葉にふれている絵本
- ★ 言葉や音のくり返しがある絵本



## 幼児期の読み聞かせ

絵本を読むだけでなく、読み聞かせをきっかけに会話を増やすことが大切です。

「次はなると思う?」、「こうなったんじゃないかな」と考えのやり取りをしたり、幼稚園や保育園での読み聞かせを話題に会話をしたりするといいですね。

さまざまなジャンルの絵本や本を選べると、子どもの興味・関心も広がります。

〈おすすめの絵本・本〉

- ★ 昔ばなし
- ★ 物語・童話
- ★ 科学絵本
- ★ 図鑑



## 児童期の読み聞かせ

文字を読めることと、書かれている内容を理解することは違います。内容を味わい、書かれていることを自分の経験と結び付けて想像できるようにするために、子どもと本について語り合ったり、感想を伝え合ったりすることが大切です。

一人で本を読めるようになって、子どもが求める間は読み聞かせを続けましょう。

〈おすすめの絵本・本〉

- ★ 友情や家族の絆を描いたもの
- ★ 困難を乗り越える勇気を描いたもの
- ★ 動物やファンタジーの要素を取り入れたもの



Q：0歳児への読み聞かせは効果があるの？

A：生後3～5ヵ月になると、少しずつ物や色を認識できるようになり、絵本の絵を見て楽しむことができます。意味は分からなくても、絵本の音やリズムは五感を刺激し、豊かな感性を養っていきます。

読み聞かせをしているだけでも、声をかけられていると感じ、こころを落ち着かせることができます。

Q：読み聞かせの頻度や時間はどのくらい？

A：「毎日必ず10分読み聞かせをする」のように、義務になると大人は負担となり、子どもも楽しめません。子どもが「読んで！」と言った時は、5分でもいいので、可能な範囲で読みましょう。

気持ちにゆとりをもって、子どもも大人も楽しむことが大切です。

Q：読み聞かせから一人読みにつなぐには？

A：絵本と児童文学の中間に位置するのが「幼年童話」です。絵本に比べると文章量は増えますが、ストーリーをとらえやすくするために絵も多いです。

幼年童話は、言葉からさまざまな想像をふくらませ、子どもの世界を広げます。読み聞かせにも、一人読みの練習にも最適です。